

佳作

先輩から学んだこと 山形県山形市立金井中学校 3年 相馬 茉実

中学3年生となり、人生初の受験生となった。私の周りの人たちは受験勉強に本気になって取り組んでいる。しかし私は、なかなか勉強のスイッチを入れられずにいた。周りの人は本気なのに、なぜ私は本気になれないのだろうか……。これではダメだと分かっているのに机に向き合えない日々。自分への不安が募り、弟がテレビを見ているだけでイライラしてしまう。そんな自分が嫌だったが、変わり方が分からなかった。

そんな私の夏休みに転機が訪れた。私の中学校生活最後の大会の応援に私たちの先輩が応援に来てくれたのだ。先輩たちは高校生でもう会えないと思っていた。優しく、何事にも真剣な尊敬する先輩たちとの再会がとてもうれしかった。高校生の先輩たちは自信に満ちていて輝いていた。「高校生活って、楽しいんだよ。」と先輩は言っていた。先輩の楽しそうな様子を見ていると、高校生になるのが楽しみに思えてきた。「受験勉強」イコール「つらい」という考えが、一瞬にして「受験勉強」イコール「未来の自分を創るため、新しい人生を歩むための挑戦」だと思えるようになり、受験を前向きに捉えられるようになった。さらに、「〇〇高校の水泳部と一緒に練習しよう。〇〇高校に来てね」と、3人の先輩たちがそれぞれの高校の良い所、楽しさを教えてくれた。先輩たちと一緒に泳ぎたい、先輩たちと同じ高校に通いたい、と強く思わせてくれた言葉だった。あこがれの先輩の言葉は心に響いた。この出来事以来、私は少しずつ勉強のスイッチを入れられるようになってきた。勉強時間が長くなり、解ける問題が多くなってきたように感じる。

ある日、私は応用問題にチャレンジしてみた。「分からない……」鉛筆が動かなかった。基礎は解けても応用は解けないのだと実感した。勉強をなげだしたくなった。今までの私なら勉強をなげだしていたかもしれない。しかし、先輩と再会した私は大きく変化していた。分からないなら先生に質問すればよいのだと気づき、勉強を頑張ることができた。先生に質問しに行くと「一つ一つ手順を踏んで考えることが大切なのだ。」と教えてもらった。「解けた。」この快感を忘れることはできない。努力を続けることは、つらいと覚えることもある。しかしつらいことも継続することで解ける問題は確実に増えることを私は知っている。これは勉強だけに言えることではない。小学生から続けている水泳、3歳から続けているピアノなど、さまざまなことに挑戦する上でつらい、くる

しいと思うことは数えきれないほどあった。しかし、私は努力が実る日を信じて努力し続けた。コーチに言われ続けてきた「今、努力をやめたら今まで努力してきた自分がかっこいいんだ。成果が出るまで耐えるんだ」という言葉を信じ、努力した。成果が出るまで時間はかかったが必ず努力が結実する日はきた。小さなことの積み重ねで大きな成果が生まれるのだ。先輩に再会することができなかつたら、勉強を頑張ろうと思えなかつたかもしれない。先輩も、つらさを乗り越えてきたのだろう。先輩が高校生活の楽しさを教えてくれたことに感謝して、一步一步前へ進んでいきたいと思う。入試当日まであと半年。高校入学後の楽しい生活のために自分のやるべきことをやり切り、悔いのない1年にしたい。

高校へ入学したら、私を変えてくれた先輩のように後輩たちに高校生活の楽しさを教えられる先輩になれる日を目指して未来へ走っていこうと思う。今まで部活動で支え合い、高め合ってきた仲間と、また一緒に部活動を楽しめる日のための挑戦の期間を諦めずに頑張りたい。勉強がつらくなったら、いつも思い出す「高校生活は楽しいよ。一緒の高校で同じ部活をしようね。」という言葉。この言葉を心の支えにして努力していこうと思う。私のように勉強への切りかえができずに不安に思っている人がいると思う。私が前向きになれたのは、先輩の言葉があったからだ。私の周りに不安を持つ人がいたら、一緒に高め合っていけると良いと思う。つらい思いを乗り越えた先には、自信に満ちた新しい自分への成長が待っていると思う。一人で乗り越えられなければ仲間と共に新しいことにチャレンジする。そんな人に私はなりたい。